

統 計

昭和41年を中心とした全国人口の再生産に関する主要指標

わが国全国についての人口再生産力に関する主要指標、すなわち、標準化人口動態率（標準人口：昭和5年全国）、女子の人口再生産率、ならびに女子の安定人口諸指標の算定は、資料課において毎年行なわれており、すでに、昭和40年以前の結果数値は『人口問題研究』あるいは「研究資料」に発表してきている¹⁾。

今回、これら指標の昭和41年についての算定を終えたので、ここにその結果を発表するが、時系列的比較の便宜のために、大正14年以降算定各年次の主要算定数字について摘要表を作成、掲載した(第1～3表)。なお、最新の昭和41年については単に算定の最終結果だけでなく、計算の基礎となった数字ならびに計算過程の主要な数字、たとえば年齢別の人口、出生・死亡数、出生・死亡率、生残数なども掲載しておいた(第4表以降)。

掲載した諸指標については、それ自体の概念および算定方法についての専門的説明を必要とするが、ここには、限られた紙面で詳細を記しえないので省略した。それらについては、注記の各資料を参照していただきたい。

昭和41年の算定結果について

昭和41年の全国出生数は約136万で、前年の約182万より46万、25%を越える減少であった。これは明治33(1900)年以来最少の出生数であって、従来の最少であった明治39年(この年は前回の「丙午(ひのえうま)」に当たる)の約139万をさらに下回ったことになり、人口1,000に対する出生率は13.7という、まことに驚くべき低率を記録した。このことは、やはりこの年が「ひのえうま」に当たっており、その迷信の影響によるものと考えられる。

この大幅な出生減のために、出生と死亡の差である自然増加、すなわち人口の自己再生産純量は約69万で、前年の112万の6割にしかすぎない。人口1,000対の率では7.0となり、大正7年の5.5‰(この年の場合はインフルエンザが大流行して多くの死者を出した)に次ぐ最近にない低率を示した。

このように、昭和41年は「ひのえうま」による出生減の影響で、ここに示した人口再生産に関する各指標も、いずれもかつてない低い値となっている。そこで、今回はその算定結果についての説明は省略して、この特異な出生率の急減が、各年齢階級の特殊出生率で見た場合どのような変化を示しているかを簡単に観察してみたい。

年齢階級別特殊出生率の変化の傾向は、当然に年齢ごとに異なることが予想される。そこで、それらの特殊出生率のそれぞれ割合を異にする低下が、全体の出生率の低下に対してそれぞれどのように寄与したかを検討してみよう。まず、前年の昭和40年との比較を行なってみる。いま、昭和40年の出生力(年齢別特殊出生率)が41年の人口構造の下ではどのような値(期待出生数)となるかを求め、これと41年の実際の出生数とを対比させ、その差が各年齢階級でどのような割合を示すかをみる。これは、つまり昭和41年の再生産年齢の女子人口の年齢構成の下に、40年の年齢階級別特殊出生率が、41年のその水準まで低下したとした場合、各年齢階級の女子からの出生数の減少分が、出生総数の減少の中でそれぞれどのような割合を示すかを求めることになる。

1) 発表資料については、山口喜一「昭和40年を中心とした人口再生産力に関する主要指標」『人口問題研究』第104号、昭和42年10月の62ページを参照されたい。それ以後の資料には次のものがある。

厚生省人口問題研究所(山口喜一・金子武治・矢島昭子担当)『全国人口の再生産に関する指標 昭和35～40年』(研究資料第178号)、昭和42年10月。

その結果は参考表として下に示したが、これによると、15～19歳および45～49歳階級は若干の増加を示したが、その両端を除いた各年齢階級で出生数が減少し、減少総数に対する割合では、出生の基幹年齢層である25～29歳が過半を占める55%弱、その前後の20～24歳と30～34歳階級がそれぞれ約20%で、この三つの階級だけで97%を越えているのである。

参考表 出生数の変動に対する年齢階級別特殊出生率の変動の寄与に関する一試算

年齢階級	昭和40年～41年の変動				昭和36年～41年の変動			
	昭和40年の $f_F(x)$ を41年の $P_F(x)$ に適用した場合の期待出生数	昭和41年の実際出生数	期待出生数と実際出生数の差	期待出生数と実際出生数の差の構成比(%)	昭和36年の $f_F(x)$ を41年の $P_F(x)$ に適用した場合の期待出生数	昭和41年の実際出生数	期待出生数と実際出生数の差	期待出生数と実際出生数の差の構成比(%)
15～19	18,668	20,015	- 1,347	- 0.29	24,551	20,015	4,536	1.52
20～24	488,342	394,071	94,271	20.49	436,874	394,071	42,803	14.32
25～29	869,065	617,846	251,219	54.61	777,024	617,846	159,178	53.25
30～34	360,541	258,497	102,044	22.18	325,839	258,497	67,342	22.53
35～39	73,707	61,116	12,591	2.74	79,706	61,116	18,590	6.22
40～44	10,211	8,958	1,253	0.27	15,149	8,958	6,191	2.07
45～49	468	471	- 3	- 0.00	771	471	300	0.10
Σ	1,821,002	1,360,974	460,028	100.00	1,659,914	1,360,974	298,940	100.00

以上は一つの試算にすぎないが、昭和41年の出生の低下においては、20～34歳、ことに25～29歳の特殊出生率の低下の果たした役割がきわめて大であったということが指摘できる。このことは、参考表に併載している5年前の昭和36年(40年以前において最低の出生率を示した年)との間における同様な計算結果にも示されている。

(山口喜一・金子武治)

Indices of Population Reproductivity for All Japan: 1966

The results of the calculations of the standardized vital rates (1930 census population as the standard population), population reproduction rates of females and several indices of the stable population until 1965 have already been completed and reported by the author in Nos. 94, 96 and 104 of *The Journal of Population Problems* and other publications. In this number, the completed result of the above for 1966 are to be reported.

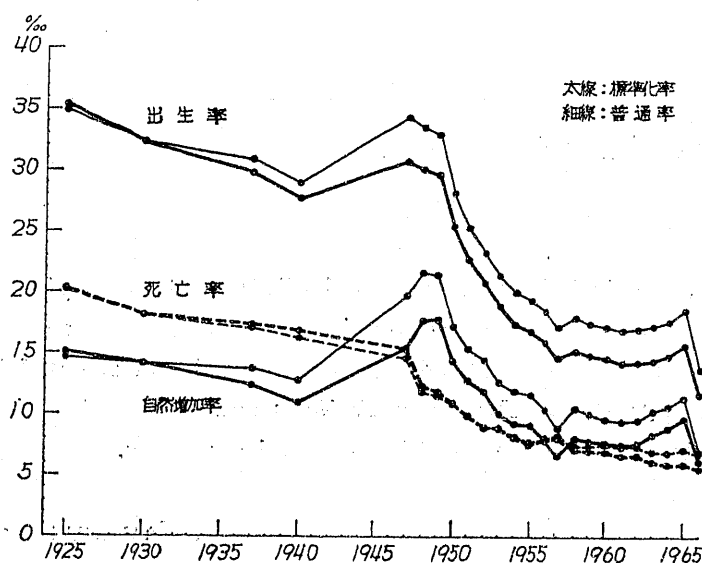
(K. YAMAGUCHI and T. KANEKO)

第1表 年次別標準化人口動態率：大正14年～昭和41年（付 普通人口動態率）
Table 1. Standardized and Crude Vital Rates: 1925~1966

年次 Year	標準化人口動態率 (‰)			昭和5年を基準とした指数 Index of stand. v. r. (1930=100)			〔参考〕 普通人口動態率 (‰)		
	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate
大正14 1925	35.27	20.24	15.03	109.0	111.4	106.0	34.92	20.27	14.65
昭和 5 1930	32.35	18.17	14.18	100.0	100.0	100.0	32.35	18.17	14.18
12 1937	29.77	17.35	12.42	92.0	95.5	87.6	30.88	17.10	13.78
15 1940	27.74	16.80	10.94	85.7	92.5	77.2	28.95	16.24	12.71
22 1947	30.69	15.32	15.37	94.9	84.3	108.4	34.30	14.57	19.73
23 1948	30.03	12.31	17.72	92.8	67.7	125.0	33.52	11.88	21.64
24 1949	29.66	11.88	17.78	91.7	65.4	125.4	32.98	11.56	21.42
25 1950	25.33	10.97	14.36	78.3	60.4	101.3	28.10	10.88	17.22
26 1951	22.63	9.88	12.75	70.0	54.4	89.9	25.29	9.92	15.37
27 1952	20.75	8.86	11.89	64.1	48.8	83.9	23.37	8.92	14.45
28 1953	18.86	8.85	10.01	58.3	48.7	70.6	21.48	8.88	12.60
29 1954	17.44	8.16	9.28	53.9	44.9	65.4	20.05	8.18	11.87
30 1955	16.79	7.67	9.12	51.9	42.2	64.3	19.39	7.77	11.62
31 1956	15.83	7.86	7.97	48.9	43.3	56.2	18.47	8.03	10.44
32 1957	14.61	8.01	6.60	45.2	44.1	46.5	17.23	8.28	8.95
33 1958	15.19	7.14	8.05	47.0	39.3	56.8	18.02	7.46	10.56
34 1959	14.82	7.02	7.80	45.8	38.6	55.0	17.55	7.45	10.10
35 1960	14.62	6.99	7.63	45.2	38.5	53.8	17.19	7.56	9.63
36 1961	14.24	6.71	7.53	44.0	36.9	53.1	16.86	7.38	9.48
37 1962	14.26	6.64	7.62	44.1	36.5	53.7	17.01	7.46	9.55
38 1963	14.45	6.10	8.35	44.7	33.6	58.9	17.26	6.98	10.28
39 1964	14.80	5.91	8.89	45.7	32.5	62.7	17.66	6.93	10.73
40 1965	15.65	5.97	9.68	48.4	32.9	68.3	18.56	7.13	11.43
41 1966	11.73	5.55	6.18	36.3	30.5	43.6	13.74	6.77	6.97

昭和5年全国人口を標準人口に採り、Newsholme-Stevensonの任意標準人口標準化法の直接法による。国勢調査人口およびそれに基づく推計人口、人口動態統計による出生・死亡数によって算出。昭和15年以前は旧沖繩県を含んでいる。
標準化についての詳細は、「人口問題研究所研究資料」の第155号を参照。

〔参考図〕 標準化および普通人口動態率の推移：1925～66年

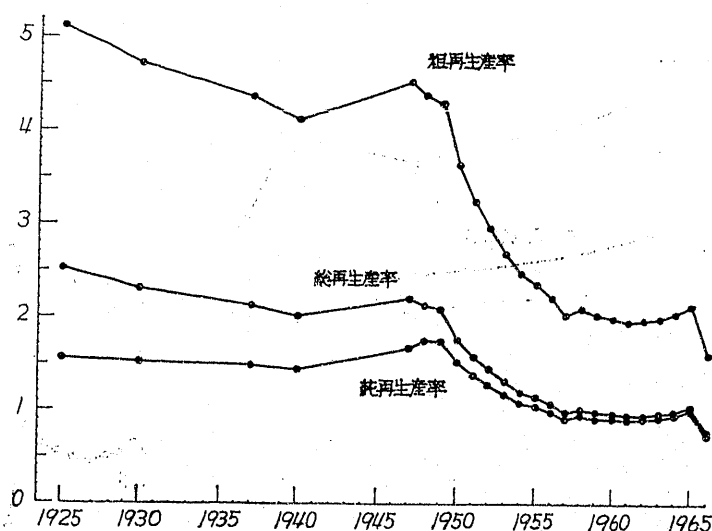


第2表 年次別女子の人口再生産率：大正14年～昭和41年
Table 2. Reproduction Rates for Female : 1925~1966

年次 Year	粗再生産率	総再生産率	純再生産率	再生産	静止粗再	(1)-(5)	昭和5年を基準とした指数 Index of rep. rates (1930=100)		
	Total fertility rate (1)	Gross reproduction rate (2)	Net reproduction rate (3)	残存率 (3)/(2) (4)	生産率 (1)/(3) (5)		粗再生産率 Total fertility (7)	総再生産率 Gross rep. rate (8)	純再生産率 Net rep. rate (9)
大正14 1925	5.11	2.51	1.56	0.62	3.28	1.83	108.5	109.1	102.6
昭和 5 1930	4.71	2.30	1.52	0.66	3.10	1.61	100.0	100.0	100.0
12 1937	4.36	2.13	1.49	0.70	2.93	1.43	92.6	92.6	98.0
15 1940	4.11	2.01	1.44	0.72	2.85	1.26	87.3	87.4	94.7
22 1947	4.52	2.20	1.67	0.76	2.71	1.81	96.0	95.7	109.9
23 1948	4.37	2.13	1.75	0.82	2.50	1.87	92.8	92.6	115.1
24 1949	4.29	2.09	1.74	0.83	2.47	1.82	91.1	90.9	114.5
25 1950	3.63	1.76	1.53	0.87	2.37	1.26	77.1	76.5	100.7
26 1951	3.24	1.58	1.38	0.87	2.35	0.89	68.8	68.7	90.8
27 1952	2.96	1.45	1.28	0.88	2.31	0.65	62.8	63.0	84.2
28 1953	2.68	1.31	1.17	0.89	2.29	0.39	56.9	57.0	77.0
29 1954	2.47	1.20	1.09	0.91	2.27	0.20	52.4	52.2	71.7
30 1955	2.36	1.15	1.05	0.91	2.25	0.11	50.1	50.0	69.1
31 1956	2.21	1.07	0.99	0.93	2.23	-0.02	46.9	46.5	65.1
32 1957	2.03	0.99	0.91	0.92	2.23	-0.20	43.1	43.0	59.9
33 1958	2.10	1.02	0.96	0.94	2.19	-0.09	44.6	44.3	63.2
34 1959	2.03	0.99	0.92	0.93	2.21	-0.18	43.1	43.0	60.5
35 1960	1.99	0.97	0.92	0.95	2.16	-0.17	42.3	42.2	60.5
36 1961	1.95	0.95	0.90	0.95	2.17	-0.22	41.4	41.3	59.2
37 1962	1.97	0.95	0.91	0.96	2.16	-0.19	41.8	41.3	59.9
38 1963	1.99	0.97	0.93	0.96	2.14	-0.15	42.3	42.2	61.2
39 1964	2.04	0.99	0.95	0.96	2.15	-0.11	43.3	43.0	62.5
40 1965	2.13	1.04	1.00	0.96	2.13	0.00	45.2	45.2	65.8
41 1966	1.60	0.77	0.74	0.97	2.14	-0.54	34.0	33.5	48.7

国勢調査人口およびそれに基づく推計人口、人口動態統計による出生数ならびに生命表の生残数(L(x))によって算出。昭和15年以前は旧沖縄県を含む。なお昭和41年は5歳階級、40年以前は各歳別によって算定。人口再生産率についての詳細は、「人口問題研究所研究資料」の第157号を参照。

〔参考図〕 女子人口再生産率の推移：1925～66年



第3表 年次別女子の安定人口動態率および年齢構造係数：大正14年～昭和41年
(付 女子の実際人口年齢構造係数)

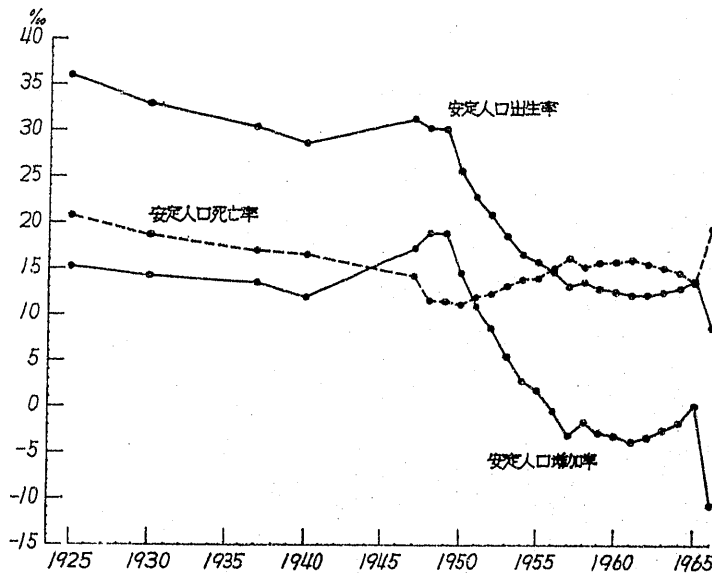
Table 3. Intrinsic Vital Rates and Age Composition of Stable and Actual Populations for Female : 1925~1966

年次 Year	安定人口動態率 (%) Intrinsic vital rates (%)			安定人口年齢構造係数 Age composition of stable population (%)			〔参考〕 実際人口年齢構造係数 Age composition of actual population (%)		
	増加率 Increase rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	0~14	15~64	65≤	0~14	15~64	65≤
大正14 1925	15.19	35.95	20.76	37.57	57.77	4.66	36.54	57.73	5.73
昭和 5 1930	14.19	32.87	18.68	35.79	58.83	5.38	36.45	58.11	5.44
12 1937	13.40	30.37	16.97	34.57	59.49	5.94	36.48	58.14	5.38
15 1940	11.99	28.60	16.61	33.59	60.36	6.05	35.71	58.84	5.45
22 1947	17.14	31.30	14.16	35.92	58.69	5.39	34.10	60.46	5.44
23 1948	18.83	30.31	11.48	36.08	58.15	5.77	34.16	60.39	5.45
24 1949	18.77	30.15	11.38	35.80	58.48	5.72	34.29	60.20	5.51
25 1950	14.56	25.62	11.06	31.90	60.71	7.39	34.17	60.21	5.62
26 1951	10.96	22.92	11.96	29.28	61.97	8.75	33.89	60.50	5.61
27 1952	8.56	20.80	12.24	27.31	63.06	9.63	33.47	60.85	5.68
28 1953	5.48	18.52	13.04	24.94	63.68	11.38	33.02	61.22	5.76
29 1954	2.90	16.65	13.75	23.04	64.04	12.92	32.68	61.44	5.88
30 1955	1.72	15.72	14.00	22.08	64.10	13.82	32.19	61.82	5.99
31 1956	— 0.42	14.67	15.09	20.93	65.07	14.00	31.42	62.55	6.03
32 1957	— 3.14	13.02	16.16	19.05	64.85	16.10	30.59	63.33	6.08
33 1958	— 1.63	13.51	15.14	19.66	64.31	16.03	29.85	63.99	6.16
34 1959	— 2.80	12.89	15.69	18.95	64.47	16.58	29.10	64.64	6.26
35 1960	— 3.18	12.59	15.77	18.64	64.45	16.91	28.88	64.75	6.37
36 1961	— 3.74	12.23	15.97	18.27	64.65	17.08	28.62	64.91	6.48
37 1962	— 3.33	12.24	15.57	18.27	64.14	17.59	27.54	65.89	6.57
38 1963	— 2.54	12.49	15.03	18.62	63.96	17.42	26.40	66.89	6.71
39 1964	— 1.70	12.92	14.62	19.17	64.14	16.69	25.29	67.87	6.84
40 1965	— 0.11	13.70	13.59	20.11	63.73	16.16	24.69	68.40	6.92
41 1966	— 10.66	8.73	19.39	13.92	62.92	23.16	23.85	69.03	7.11

国勢調査人口およびそれに基づく推計人口、人口動態統計による出生数ならびに生命表の生残数(L(x))によって算出。昭和15年以前は旧沖縄県を含む。

安定人口についての詳細は、「人口問題研究所研究資料」の第161号を参照。

〔参考図〕 女子の安定人口動態率の推移：1925~66年



第4表 女子の年齢（5歳階級）別人口，出生数，特殊出生率および生残数ならびに人口再生産率：昭和41年

Table 4. Population, Number of Births and Specific Fertility Rates by 5-Year Age Groups, and Reproduction Rates for Female: 1966

年齢階級 x	女子人口 $P_F(x)$	出生数			特殊出生率		生残数 (静止人口) $L_F(x)$	$\frac{r f_F(x) \times L_F(x)}{100,000}$
		総数 $B_S(x)$	男 $B_M(x)$	女 $B_F(x)$	$\frac{B_S(x)}{P_F(x)}$ $f_F(x)$	$\frac{B_F(x)}{P_F(x)}$ $f_{FF}(x)$		
15 ~ 19	5,657,000	20,015	10,444	9,571	0.003538	0.001692	97,571	0.001651
20 ~ 24	4,347,000	394,071	204,287	189,784	0.090654	0.043659	97,278	0.042471
25 ~ 29	4,279,000	617,846	320,119	297,727	0.144390	0.069579	96,846	0.067384
30 ~ 34	4,171,000	258,497	134,195	124,302	0.061975	0.029801	96,312	0.028702
35 ~ 39	3,821,000	61,116	31,522	29,594	0.015995	0.007745	95,652	0.007408
40 ~ 44	3,359,000	8,958	4,651	4,307	0.002667	0.001282	94,744	0.001215
45 ~ 49	2,754,000	471	245	226	0.000171	0.000082	93,415	0.000077
Σ	28,388,000	1,360,974	705,463	655,511	0.319390	0.153840	—	0.148908
$5 \times \Sigma$	—	—	—	—	1.596950	0.769200	—	0.744540

本表の数値は，前掲第1～3表の各指標の昭和41年分算定に用いたものである。

女子人口は，総理府統計局の推計による昭和41年10月1日現在人口。出生数は，厚生省大臣官房統計調査部の昭和41年人口動態統計。生残数は，人口問題研究所の第20回簡速静止人口表(昭和41年4月～42年3月)による $L(x)$ ，ただし， $L(0)=10$ 万なので $L(x)/100,000$ を採っている。なお，本表の出生数は母の年齢が15歳未満，50歳以上および不詳の出生数(総数42，男21，女21)につき，15～49歳の既知の年齢別数値の割合に応じて案分補正したものである。

$f_F(x)$ の 5Σ は粗再生産率， $r f_F(x)$ の 5Σ は総再生産率， $r f_F(x) \cdot L_F(x)$ の 5Σ は純再生産率である。

第5表 男女，年齢（5歳階級）別人口，死亡数および特殊死亡率：昭和41年

Table 5. Population, Number of Deaths, and Specific Mortality Rates by 5-Year Age Groups and Sexes: 1966

年齢階級 x	総数 Both sexes			男 Male			女 Female		
	人口 $P_S(x)$	死亡数 $D_S(x)$	特殊死亡率 $m_S(x)$	人口 $P_M(x)$	死亡数 $D_M(x)$	特殊死亡率 $m_M(x)$	人口 $P_F(x)$	死亡数 $D_F(x)$	特殊死亡率 $m_F(x)$
総数 Total	99,056,000	670,342	0.006767	48,628,000	363,356	0.007472	50,429,000	306,986	0.006087
0 ~ 4	8,000,000	34,587	0.004323	4,085,000	19,777	0.004841	3,915,000	14,810	0.003783
5 ~ 9	7,789,000	4,429	0.000569	3,965,000	2,784	0.000702	3,824,000	1,645	0.000430
10 ~ 14	8,733,000	3,402	0.000390	4,442,000	2,059	0.000464	4,290,000	1,343	0.000313
15 ~ 19	11,444,000	8,148	0.000712	5,787,000	5,566	0.000962	5,657,000	2,582	0.000456
20 ~ 24	8,634,000	9,862	0.001142	4,287,000	6,326	0.001476	4,347,000	3,536	0.000813
25 ~ 29	8,490,000	10,952	0.001290	4,211,000	6,880	0.001634	4,279,000	4,072	0.000952
30 ~ 34	8,365,000	13,105	0.001567	4,194,000	8,035	0.001916	4,171,000	5,070	0.001216
35 ~ 39	7,666,000	16,250	0.002120	3,845,000	10,204	0.002654	3,821,000	6,046	0.001582
40 ~ 44	6,328,000	18,029	0.002849	2,968,000	10,451	0.003521	3,359,000	7,578	0.002256
45 ~ 49	4,977,000	21,515	0.004323	2,223,000	12,049	0.005420	2,754,000	9,466	0.003437
50 ~ 54	4,718,000	32,034	0.006790	2,187,000	18,604	0.008507	2,530,000	13,430	0.005308
55 ~ 59	4,165,000	45,702	0.010973	1,987,000	28,079	0.014131	2,178,000	17,623	0.008091
60 ~ 64	3,330,000	61,803	0.018409	1,615,000	38,532	0.023859	1,715,000	22,771	0.013278
65 ~ 69	2,669,000	79,172	0.029664	1,269,000	47,900	0.037746	1,399,000	31,272	0.022353
70 ~ 74	1,829,000	90,685	0.049582	826,000	51,132	0.061903	1,002,000	39,553	0.039474
75 ~ 79	1,126,000	92,949	0.082548	466,000	46,442	0.099661	660,000	46,507	0.070465
80 ≦	795,000	128,218	0.161281	269,000	48,536	0.180431	527,000	79,682	0.151199

本表の数値は，前掲第1表の標準化死亡率の昭和41年分算定に用いたものである。

人口は，総理府統計局の推計による昭和41年10月1日現在人口。死亡数は，厚生省大臣官房統計調査部の昭和41年人口動態統計による。なお本表の死亡数は，年齢不詳(総数39，男28，女11)分を既知の男女，年齢別数値の割合に応じて案分補正したものである。

第6表 女子の安定人口増加率，出生率および死亡率ならびに平均世代間隔：昭和41年
(付 計算過程の主要指標)

Table 6. Intrinsic Vital Rates and Average Length of Generation of Stable Population for Female: 1966

指 標 Items	算定数値 Results	指 標 Items	算定数値 Results
安定人口増加率 (Intrinsic increase rate) $r = \frac{1}{\beta} (-\alpha + \sqrt{\alpha^2 + 2\beta \log e R_0})$	- 0.010663	$L_0 = \sum_{x=0}^w L_F(x)$	73.45945
安定人口出生率 (Intrinsic birth rate) $b = \frac{1}{L_0} \int A' dr$	0.008733	$L_1 = \sum_{x=0}^w (x+0.5) L_F(x)$	2,843.798125
安定人口死亡率 (Intrinsic death rate) $d = b - r$	0.019396	$L_2 = \sum_{x=0}^w (x+0.5)^2 L_F(x)$	149,796.204063
$R_0 = \sum_{x=15}^{49} L_F(x) F F_F(x) \dots$ 純再生産率	0.744540	$L_3 = \sum_{x=0}^w (x+0.5)^3 L_F(x)$	9,020,825.244531
$R_1 = \sum_{x=15}^{49} (x+0.5) L_F(x) F F_F(x)$	20.517300	$u = \frac{L_1}{L_0} \dots$ 静止人口平均年齢	38.712489
$R_2 = \sum_{x=15}^{49} (x+0.5)^2 L_F(x) F F_F(x)$	580.340125	$v = u^2 - \frac{L_2}{L_0}$	- 540.511798
$\alpha = \frac{R_1}{R_0} \dots$ 静止人口平均世代間隔	27.557015	$w = u^3 - \frac{2}{3} \cdot u \cdot \frac{L_2}{L_0} + \frac{1}{2} \cdot \frac{L_3}{L_0}$	1,004.829475
$\beta = \alpha^2 - \frac{R_2}{R_0}$	- 20.072236	$\int A' dr = ur + \frac{1}{2} vr^2 + \frac{1}{3} wr^3$	- 0.443938
		安定人口平均世代間隔 (Average length of generation of stable population) $\bar{T} = \alpha + \frac{1}{2} \beta r$	27.664033

各指標の性質等については，「人口問題研究所研究資料」第161号を参照。

第7表 女子の安定人口年齢（5歳階級別）構造係数：昭和41年

Table 7. Age Composition of Stable Population for Female: 1966

年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$
0~4	0.044054	25~29	0.056705	50~54	0.069883	75~79	0.050257	0~14	0.139142
5~9	0.046311	30~34	0.059482	55~59	0.071312	80~84	0.032517	15~64	0.629222
10~14	0.048777	35~39	0.062309	60~64	0.071380	85~89	0.014256	65≦	0.231635
15~19	0.051352	40~44	0.065098	65~69	0.068950	90~94	0.003069		
20~24	0.054002	45~49	0.067699	70~74	0.062437	95~99	0.000149	Σ	1.000000

計算方法その他詳細については，「人口問題研究所研究資料」第161号を参照。